2025 年度 総合型選抜試験（B 日程） 法学部 法律学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
22	10

2. 法律学科 アドミッション・ポリシー

法律学科では、法的思考能力（リーガル・マインド）を備え、現実の社会におけるさまざまな問題に対して、論理的かつ合理的に考え、柔軟かつ適切な解決策を導き出すことのできる人材の育成を目指しています。

そのため、高い志と正義感、忍耐力を備え、以下のような適性を持った意欲ある志願者を求めています。

① 社会の動きについて、幅広い関心と知識を持っている人
② 物事を柔軟かつ論理的に考え、自分の意見を的確に表現できる人
③ 多様な意見に耳を傾け、適切な解決策を導き出す努力ができる人

総合型選抜入学試験では、志願者の自己推薦ポイント（人間性、活動実績、将来への夢・希望など）が、これから法律学科で学んでいく上でどのような意義をもつかを、みなさん自身の言葉で明確に表現できることが望まれます。

3. 出題の意図

本問のテーマは、共同親権制度についてである。

日本ではこれまで、子供のいる夫婦が離婚した場合には、父親か母親のどちらかが親権を持つ単独親権制度がとられていた。しかし、2024 年 5 月の法律改正によって、離婚した場合でも、父親と母親の両方が親権を持つ共同親権制度が導入されることになった。

共同親権制度については、賛成意見、反対意見があり、大きな議論となった。本問は、共同親権制度をめぐる議論について、日頃のニュース等を通じて把握しているかを問うとともに、それを踏まえたうえで、自分の意見を述べることができるかを問うことを意図している。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

まず、従来の単独親権制度については、父親か母親のどちらか一方が親権を持ち（親権者）、もう一方は親権を持たない（非親権者）ことから、様々な問題点か指摘されていた。

すなわち、①離婚時に親権争いが生じやすく、親権を獲得したい親が強引に子供を連れて遠方に引っ越してしまう、いわゆる子供の連れ去りが起こる場合がある、②非親権者は子供の養育に関わることができないため、養育費の支払いをしなくなってしまう場合がある、③親権者が非親権者に子供を面会させなくなってしまう場合がある、といった点が指摘されていた。

そこで、共同親権制度の導入により、離婚時に親権争いを避けることができ、養育費の不払いを防ぐことができ、子供との面会交流が実施されやすくなるとして、賛成する意見がある。

これに対して、①DV（ドメスティック・バイオレンス。いわゆる家庭内暴力）が原因で離婚する場合に、もう相手に会いたくないのに会わざるを得なくなってしまう、②子供の進学などは父母が共同して決定しなければいけないので、話し合いに時間がかかってしまう、③子供の面会交流をしなければいけないので、遠方に引っ越すことができなくなってしまう、といった反対意見がある。

以上のような議論を踏まえたうえで、共同親権制度について、自分の意見を述べてもらいたい。

2025 年度 総合型選抜試験（B 日程） 法学部 地域行政学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
15	9

2. 地域行政学科 アドミッション・ポリシー

地域行政学科は、法律・政治・行政分野の学びを通して、より深い見識と広い視野を身につけ、将来的に地域社会のリーダーとしてその発展に貢献できるような人材になりたいという強い意欲を持つ志願者を求めます。そして、このような志願者を受け入れるために、特に次の点を重視します。

1. 地域社会の出来事や国内外の情勢に強い関心を持ち、地方自治体および民間企業のなかで地域社会の発展のために貢献していこうとする強い意欲や希望、自らの将来計画、更には行動力を有していること。
2. 地域社会の抱える課題を発見し、これまで学んできた知識をもとにその解決策を論理的に考えることができること。
3. 課題解決に取り組む際に、まずは自分自身の考えを持ち、そして他者との意見交換を通して議論を発展させ、一定の成果を挙げることができること。
4. 様々な価値観を持つ他者に対して自ら働きかけ、他者と協働して目標を達成した経験を有していること。
5. 国語や社会の科目について、現代社会の課題を発見し解決する能力を向上させるうえで前提となる知識や読解力・文章力といった、高等学校で身につけるべき基礎的学力を有していること。

3. 出題の意図

地域行政学科で学んでいく社会課題やその解決策である政策は、通常、一つの、明瞭で単純な回答が見つからない性質を持っています。一つの問題に対して複数の異なる見方ができ、異なる解決策が出てきます。同じ分野の二つの問題には、相互の間に複雑な関係があり、一つの問題の解決策を考えると、もう一つの問題を悪化させてしまう、という場合も、現実にはしばしばあります。

今回の出題は、沖縄県では合計特殊出生率が他の都道府県に比べると、下がってきた今も

さほど悪くなく、全国的な少子化が日本のほとんどの自治体での深刻な問題となっている状況の中で、県の合計特殊出生率をこれ以上低下させない方法があるのか、という問いと、一方で、沖縄県では若年出産率が高く、それが貧困の再生産を生み出している、それをどう止めるかという問いの二つを考えて貰いたいと思います。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

　それぞれについて、考えた解決策を、どのようにバランスを取るのか、まで考えられれば期待した際上限の回答になります。

2025 年度 総合型選抜試験（B 日程） 経済学部 経済学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
16	6

2. 経済学科 アドミッション・ポリシー

経済学科は、地域の自立および国際社会の発展に寄与するという教育研究目標のもと、社会人として諸問題を解決していくために求められる基本的な資質である「知識」、「考察力」、「表現力」を有する人物の育成を目指し、以下のような人物を求めます。

1.経済を含む地域および国際社会の諸問題に強い関心がある人物
2.それら諸問題の解決策を導き出すための幅広い知識獲得に意欲がある人物
3.それら諸問題について論理的かつ主体的に考察をし、行動する意欲がある人物
4.経済学や関連する諸分野の専門知識を応用し、社会において活躍することを望む人物
5.経済学や関連する社会科学分野を学ぶために必要である高等学校卒業程度の基礎学力を有する人物

3. 出題の意図

新聞、テレビ、SNS 等のメディアを通じて、光熱費・原材料費等の高騰や人手不足が日本・沖縄経済に及ぼす影響や諸問題が日々、報道・情報発信されている。出題の意図は、志願者が、①これらの諸問題が沖縄経済に及ぼす影響について強い関心を持っており、②諸問題の背景、因果関係を論理的かつ主体的に考察、理解しようとしているか。そのための基礎学力はあるのか、③仮に今、十分に理解できなくても、諸問題の解決に向けて入学後に経済学の知識を習得する意欲があり、卒業後は経済学士として社会に貢献する意思があるのか等を確認することにある（アドミッションポリシー1～5全てに関係あり）。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

県内企業の多くは中小・零細企業であり、大手企業と違い輸入物価高騰、原材料費高騰、人手不足がもたらす賃上げを十分に価格転嫁できるかどうかわからない。人手不足が続く中、持続的な賃金上昇ができなければ、必要な労働力の確保が困難となるため事業継続に影響が及ぶだろう。さらに物価上昇を超える賃金上昇が難しい場合、実質賃金は減少するため、個人消費の低迷が県経済に影響を及ぼす可能性がある。なお、物価高騰による実質賃金の低

下は、1人当たり所得が全国最下位かつ貧困割合が高い、沖縄での影響が大きいことが予想される。

今後、人手不足の中で、物価上昇を超える賃金上昇を達成して「賃金と物価の好循環」につなげるためには、生産性の上昇が必須であり、そのための DX（デジタルトランスフォメーション）、IT への投資、人材への教育投資が求められる。それを後押しする行政の役割も重要となるだろう。

問題解答では、以上のおおまかな流れについて理解しているか、あるいは部分的な理解があるかが評価のポイントとなる。他にも関連するトピックとして、主に日米金利差がもたらす円安傾向が輸入物価を上昇させている点、日米金利格差是正に向けて日銀は政策金利を引き上げる必要がある（金融政策の正常化）一方、政策金利上昇は住宅ローンや銀行の貸し出し金利上昇、国債の利払い費増加につながるリスク等への言及があれば評価の対象となる。また観光立県である沖縄では円安の是正が観光客数の変化に及ぼす影響にも注視する必要があるため、その点への言及は評価の対象となる。

2025 年度 総合型選抜試験（B 日程） 経済学部 地域環境政策学科

「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
12	7

2. 地域環境政策学科 アドミッション・ポリシー

地域環境政策学科では、経済の視点から地域と環境を考えることを通して、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献し、持続可能な社会を創造できる人材の育成を目指しています。

そこで、本学科では、次の 1～4 について自らの言葉で説明できる志願者を求めています。

1.沖縄及び世界の経済や環境の問題、政策に広く関心がある人
2.沖縄の過去・現在・未来に関心があり、地域社会へ貢献したいという熱意のある人
3.社会で起きている様々な事柄に関心を持ち、フィールド（現場）に出て、積極的に活動することが好きな人
4.大学の授業に耐えうる基礎学力を有し、勉学に対する意欲がある人

3. 出題の意図

地域社会や地域政策、時事問題などに関心を持っているかどうかを確認するため、小論文のテーマを設定した。沖縄をはじめ、国内外で大きな問題となっているオーバーツーリズムは、地域の経済や社会および環境に大きな影響を及ぼし、そのバランスの取れた政策が重要となっている。その地域政策を論理的・戦略的に考える力を測ります。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

「観光地や観光施設の受け入れ能力の超越」、「観光客のマナー問題」、「観光による地域住民への生活・行動への影響」などの具体的な問題点、また、観光客を迎える対策に関して、論理的な考えで最も有効性の高い対策（具体的な地域事例を記載してあれば高配点）を記載しているかなどを評価する。なお、字数 800 字以下は減点を行った。

日頃から新聞やニュース番組などを見て、社会情勢に関心を持つと良いかと思います。

2025 年度 総合型選抜試験（B 日程） 産業情報学部 企業システム学科

「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
19	6

2. 企業システム学科 アドミッション・ポリシー

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指し、「マーケティング」「経営」「会計」の 3 分野を柱に専門的、体系的に学んでいきます。よって、本学科では以下のような志願者を求めます。

1. ビジネスの専門的・体系的な学びを通じて自分自身のスキルや能力を鍛えるために必要となる、基礎的学力と教養を身につけている人物。
2. 企業システム学科で学びたい事を自覚し、それを具体的に表現できる人物。
3. ビジネスの課題を発見しそれを解決へ導くために、思考力と判断力を発揮して、自分の意見を的確に説明できる人物。
4. ビジネスへの深い探究心と広い好奇心、そして大学卒業後のビジョンを抱き、地域・国際社会に貢献する意欲を有する人物。
5. 自分自身が主体的に取り組んできたことや、周りの人たちと協力して取り組んできたことが、大学で学びたいことと結びついている人物。

さらに、多様な資質を有する学生を総合型選抜によって受け入れ、その資質を開花させるために必要な教育を通して将来のビジネス社会で活躍できる人材育成を行います。総合型選抜では、上記の 5 項目に加えて、他者に誇れる活動や実績等を背景とした、卓越した知識や考え方、意見を持っている人物を求めます。

3. 出題の意図

企業システム学科では、情報化、国際化の進展の中、多様なビジネス活動に対応できる人材の育成を目指している。この小論文の出題の意図は、そうした人材の育成を目指す本学科での学修にあたり、必要な能力を、受験生がどの程度持っているかみることにある。今回は、日本における全企業数の約 99%を占める中小企業に焦点をあて、中小企業と地元地域との関わり、中小企業の成長について問うた。この問いを通じて、現代におけるビジネスのあり方を、

公民科で学んだ内容も踏まえてどれだけ理解しているのか、そして課題解決に向けて、どこまで深く思考できるのかをみようとした。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

この小論文では、まず、基礎的な教養がどの程度あるかをみている。ここでいう教養とは、国語の学力に加え、社会一般に対する普段からの関心の広さと深さを表す。次に、論点を整理して、論理的に表現できているかをみている。最後に、社会の問題を他人事としてではなく自分のこととして主体的にとらえ、解決しようとする意欲が伺えるかをみている。

2025 年度 総合型選抜試験（B 日程） 産業情報学部 産業情報学科 「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
12	5

2. 産業情報学科 アドミッション・ポリシー

産業情報学科は、産業経済および情報科学・技術の基礎および専門領域における実学的な知識を習得し、高度情報化社会を牽引する国際的なスペシャリストの育成を目指します。
また、「情報」「経済」「語学」の3分野を専門的、体系的に学び、さらに地域ないしグローバルビジネス分野で活躍できる人材を育てていきます。具体的には次の能力・人材を養成・輩出していきます。

1. ビジネス・産業・経済の課題を分析し、地域や国際社会に対して解決に向けた提言ができる能力・人材
2. 総合的な情報技術を習得し、高度なプログラミングおよびシステム設計を学んだ上で、デジタルコンテンツのデザインやマネジメントを推進できる能力・人材
3. 異文化を理解し、グローバルなビジネス現場で必要な対話力・実務力・課題解決力を有する人材
4. 「情報」・「経済」・「語学」の知識を応用し、自らの社会的責任を自覚し地域で積極的に貢献できる能力・人材

上記の人材・能力を養成・輩出するために下記のような志願者を求めています。

1. 「情報」「経済」「語学」など実学に幅広く興味・関心があり、それらを深く学びたいと思う態度や、それらを学ぶ上で基礎的な知識・学力を身につけている人物
2. 産業情報の知識を科学的・論理的に学び国際社会や地域の課題を解決する能力や日本語・外国語についての基礎的な知識やコミュニケーション能力を身につけている、あるいはそれらをさらに学ぶ意欲のある人、研鑽しようと努力する人物
3. 大学生活で自ら進んで深く学ぼうと努め、学生・教員の間で互いの価値観を認めつつ協働して勉学に励みコミュニケーション能力を身につけた人物

さらに、総合型選抜では、上記の3項目に加えて、以下の項目を掲げ学力だけでは測れない多様な資質を有する志願者を求めています。

1.情報技術、またはスポーツ文化活動、語学、ボランティア活動などにおいて他者に誇れる実績などを有している人物
2.産業情報学科で学びたいことを明確にアピールできる人物
3.大学卒業後の具体的なビジョンを描き、自己研鑽できる人物

3. 出題の意図
小論文試験は、以下の出題意図に基づいている。
①情報技術およびビジネス全般、地域社会について関心を持ち、基本的な知識を有しているか。
②出題された設問に対して、論理を組み立てる思考力、自分の意見の論拠を示して明瞭に表現できるか。
③大学入学後に学ぶ知識を、自らの将来設計や社会的課題解決に活かそうとする意欲を有しているか。

今回の出題では、AI が私たちの生活や社会にどのような影響を及ぼすかについて問題意識を持っているのかどうか、自らの意見を論理的に記述できているかどうかを確認している。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）
特になし。

2025 年度 総合型選抜試験（B 日程） 総合文化学部 日本文化学科「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
7	4

2. 日本文化学科 アドミッション・ポリシー

日本文化学科は、日本文化及び琉球文化への造詣を深めることを教育上の目的としています。具体的には、言語・文学を中心とする理論的、かつ実践的な教育を通して、国際社会、情報社会、地域社会の中で自己の役割を深く認識し、生き生きと実践できる人材、そして、豊かな知性、分析力、情報処理能力、表現力、コミュニケーション能力、共生能力を備えた人材を育てていきます。

日本文化学科は、以上の学科の教育目標と沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーに照らし、次のような志願者を求めます。

1. 言語・文学を中心とする日本文化及び琉球文化、またグローバル時代に求められる多様なコミュニケーションについて主体的に学ぼうとする意欲・関心をもつ人
2. 1の学びを深めるための基礎学力をもつ人
3. 地域社会、国際社会、多文化社会、高度情報社会の中で生じるさまざまな課題を解決するために必要となる、基礎的な思考力・判断力・表現力(読解力を含む)を身につけている人

総合型選抜では、上記の 3 項目に加えて、以下のような能力・意欲と基本的な学習習慣をもった志願者を求めます。

1. 批評・創作を含む広い意味での表現活動、知的好奇心を深める豊かな読書活動、琉球文化の継承発展に関する活動、国際交流活動などの領域で優れた実績を上げ、大学生活の中で、さらに深めようとする人。
2. 国語科教員、日本語教員、図書館司書(学校司書を含む)、司書教諭などの当学科の専門領域に関わる職業に深い関心を持ち、それを通じて社会貢献を目指す人。
3. ボランティア活動、課外活動(スポーツ、文化活動ほか) などを通して、広い視野(多様性)やコミュニケーション能力を備え、大学での学びに生かそうとする人。

3. 出題の意図

総合型選抜（B 日程）において、日本文化学科ではアドミッション・ポリシーに基づき、思考力・判断力・表現力等を測るための論述式の試験問題を出題しています。論述のテーマは、「日本文化」「琉球文化」「多文化間コミュニケーション」の 3 つの専門領域に関わるものです。

今年度は日本文化と、多文化間コミュニケーションに関わる問題を出題しました。日本文化の一つである「日本語」の特質と、グローバル社会の中で必要とされる創造性について、筆者の考察から導き出された主張を的確にとらえて要約することで、大学での学びを深める上での力量を有しているか、見極めたいと思います。

また、筆者の考えを受けて、言語と創造性の問題をグローバル社会の点から論じることで、日本文化についての関心や、グローバルな視点での思考力・判断力を見取る意図があります。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

問 1（要約問題）では、適切に内容を理解し、要点が押さえられているかを評価しています。まず、出題文の大意をつかみ、論理展開を押さえるようにしましょう。今回の出題では、筆者が「得失両面から」考察している点に着目し、日本語の特質について適切に情報を整理し、まとめることが必要です。キーワードを見極め、筆者の論理展開に即して、過不足なくまとめる力が求められます。

問2（論述問題）では、論拠を示しながら論述できているかを評価しています。

論述の際は、自分の意見を明確にし、なぜそのように考えたのか、読み手に分かるように筋道立てて述べる（論じる）必要があります。じっくり構成を考えてから書き始めると良いでしょう。また、文に説得力を持たせるには、具体的なエピソードが必要です。主張を支えるのに適切な内容か、適量かを意識するとよいでしょう。また、考えを相手に伝えるためには一定の分量が必要です。指定の最大字数を目指すようにしましょう。

2025 年度 総合型選抜試験（B 日程） 総合文化学部 英米言語文化学科

「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
8	5

2. 英米言語文化学科 アドミッション・ポリシー

英米言語文化学科は、沖縄国際大学のアドミッション・ポリシーおよび学科の教育目標に照らし、以下のような志願者を求めます。

1.英語圏の言語・文化に強い関心を抱く人
2.高い英語力の習得に主体的・自律的に取り組む意欲のある人
3.英語を通じて日本と世界をつなぐグローバルな志を持つ人
4.共に学ぶことの意味と意義を考え、よりよい学びのために他者と協働できる人
5.多言語・多文化理解に必要な基礎的学力を持つ人（総合型選抜：英検 2 級、CEFR B1 程度の英語力を持つ人）
6.他者とのコミュニケーションを通して、望ましい人間関係の構築を図れる人
7.多文化共生社会において諸問題の解決に求められる基礎的な思考力・判断力・表現力などを有する人

3. 出題の意図

英米言語文化学科は、世界の人々と対話・交流するために必要な「真に国際的に通用する実的な英語力」と、益々グローバル化する社会に対応できる「情報処理技術」を身につけた人材の育成を目指している。したがって、この学科の入学希望者には他者とのコミュニケーションを大切にし、理想的な人間関係の構築と英語力の向上に積極的に努力する人物を求めている。

次の英文は、記憶力について述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけではなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、それぞれの段落の要点を整理し、日本語で簡潔にまとめる力が求められる。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2025 年度 総合型選抜試験（B 日程） 総合文化学部 人間福祉学科社会福祉専攻

「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
6	5

2. 人間福祉学科社会福祉専攻 アドミッション・ポリシー

社会福祉専攻では、以下のような志願者を求めています。

Ⅰ.将来、社会の各分野で社会福祉の専門家として働くことを強く希望し、その素質が十分あると認められる人物。

Ⅱ.社会福祉の分野に活かせる具体的な能力や技能を有し、大学での勉学や将来において活用が期待できる人物。

Ⅲ.将来、アジアや太平洋地域をはじめとする国際的な場における支援活動に参加することを熱望する人物。

また、上記のいずれかに該当する学生を募集する上で、各種入学試験では次のような点を具体的な評価の指標とします。

1.社会福祉の専門的な役割等について、的確に説明することができる人物か

2.大学で学びたいことと自分自身の将来像とのつながりについて、的確に説明できる人物か

3.国内外の社会問題、生活問題等について強く関心をもつ人物か

4.社会参加および社会貢献に対して、意欲や積極的な姿勢をもつ人物か

5.社会福祉を科学的に学ぶ（他者の声を聞き取り、要点を整理し、記述する）ための基礎的学力を有する人物か

3. 出題の意図

この課題は、志願者が、社会福祉の世界的な潮流となっている「社会モデル」というスタンスの基本的な枠組みを理解する能力を有しているか、また「私たち」の多様性を前提に共生社会のありかたを多面的に検討・模索する姿勢を有しているかを問うものである。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

特になし。

2025 年度 総合型選抜試験（B 日程） 総合文化学部 人間福祉学科心理カウンセリング専攻
「出題の意図」

1. 実施状況

志願者数・合格者数

志願者数	合格者数
11	8

2. 人間福祉学科心理カウンセリング専攻 アドミッション・ポリシー

人間福祉学科心理カウンセリング専攻は、沖縄国際大学の「アドミッション・ポリシー」を以下の通り具現化し、人間のこころに関心を持ち、自らの個性と人間力の向上に努める人物を求めます。

1. 人間の「こころと行動」と「人と人とのつながり」について科学的視点から学ぶ意欲と関心を持つ人物。
2. これまでに意欲的に取り組んできた活動や得意分野を大学での学びに結びつけ、さらに、心理学の知識や技術を今後のキャリア形成や日常生活に実践的に応用したいという真摯な態度を持つ人物。

3. 出題の意図

アドミッション・ポリシーの 1 つ目に該当するかどうかを見る意図でこの問題を出題しました。不登校の問題は大きな社会問題となっており、心理学においてもその研究・支援の対象として大きな関心事の一つです。このようなことに関心を向け、「何故不登校が増加しているのか」、「不登校の状態にある児童・生徒の心理的な問題にはどのようなことがあるのか」、「不登校の背景にある社会的な問題として何があるのか」といった視点で物事を捉え、疑問を持ち、自身の考えを論述する問題ですが、自分自身の経験や主観だけでなく、現時点での心理学等の知識に基づいて、客観的な視点も踏まえながら論述ができているかどうかを評価します。

4. その他特記事項（評価のポイント・アドバイスなど）

評価に際して、①不登校の状態にある児童・生徒の心理やその背景にあること等、設問で尋ねられていることにきちんと触れながら論述しているかどうかという点と、②その論述が主観だけでなく、心理学的な知識や社会で問題提起されていたり論じられていること等、客観的な情報や根拠を加えながら論じられているかどうかという点を重視しています。